



生き物さがしと なかま分けをしよう!

【個人出展】

東京都板橋区立中台中学校 河野 晃

●どんな観察なの?

生き物にはいろいろな種類があります。公園などに出かけ、探してみましょう。科学の祭典の期間中、ブースにて土の中の生き物観察を行います。自然観察ツアーでは、北の丸公園内にて自然の“宝”探しゲームなどを行う予定です（高温注意情報の発令等により、自然観察ツアーは中止になる場合もあります）。

●観察のしかたとコツ

I. ブースでの観察

(1)土の中の小動物

土の中から見つけた4つの生き物はどんな基準で分けたでしょうか？



図1 ミミズ
①足がない仲間



図2 アリ
②昆虫の仲間



図3 クモ
③クモ・ダニの仲間



図4 ダンゴムシ
④足が多い仲間

足の数に注目しましょう。上の図1～4では①足がない仲間、②昆虫の仲間、③クモ・ダニの仲間、④足が多い仲間に分けました。次に節の有無や形、色などを頼りに仲間分けをしましょう。

II. 自然観察ツアー

じっくり目を向けて、草むらなどを見てみましょう。思わず小さな花や昆虫などが見られるかもしれません。何か新しい発見が無いか、意識して“観る”ことが大切です。

(1)木や草などの植物

草か木か。元から日本にあった植物か、それとも園芸植物か。調べる図鑑も違ってきます。花が咲いていれば、その色や形などで調べます。葉しかないときは、その形や、茎に対してのつきかたなどを手がかりに調べましょう。

(2)鳥

大きさはどの位でしょうか？スズメ、ハト、カラスなど身近な鳥の大きさを物差しにして見てみましょう。くちばしや足、羽の色は？鳴き声の特徴は？鳴き声を聞いたら、自分でも口まねをして覚えてみましょう。

●気をつけよう

- 野外には毒を持った生物もいます。また、危険な場所もありますので必ず大人と一緒に出かけましょう。
- 見つけたものをむやみに口に入れないようにしましょう。何かをさわった後は、必ず手を洗いましょう。

●もっとくわしく知るために

- 青木淳一著：「だれでもできるやさしい土壤動物のしらべかた」 合同出版社（2005）
- 杉山恵一、他著：「自然観察の基礎知識」 信山社（2001）
- 日本自然保護協会編・監修：「野外における危険な生物」 平凡社（1994）

このほか、各地の自然観察会などに参加すると、地域の自然について詳しくなるでしょう。自然科学を学ぶには、観る力が大切です。情報や目新しい物に目がいきがちな現在、生の体験や物事をじっくり観る機会が不足しがちです。身近な公園でも、じっくり観れば子どもにとって新しい発見がたくさんあります。こうした“足もと”を見る経験をしっかりと積んでこそ、新しい発見が生まれてくることがあるでしょう。